

科学研究費助成事業（基盤研究（S））中間評価

課題番号	18H05286	研究期間	平成30(2018)年度 ～令和4(2022)年度
研究課題名	2型自然リンパ球による特発性間質性肺炎発症機構の解明	研究代表者 (所属・職) (令和2年3月現在)	茂呂 和世 (大阪大学・大学院医学系研究科・教授)

【令和2(2020)年度 中間評価結果】

評価		評価基準
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>研究代表者らが樹立した肺線維症自然発症マウス (IFNγR^{-/-}Rag2^{-/-}マウス) は、2型自然リンパ球 (ILC2) の過剰な活性化によって肺線維症を自然発症し、特発性肺線維症 (IPF) をよく模した病態を示す。本研究は、当該マウスとヒト IPF の臨床検体の遺伝子発現を single cell RNA-Seq 解析を用いて詳細に解析し、肺線維症の発症機序の解明と IPF の新規治療法開発につながる研究基盤の構築を目指すものである。</p> <p>マウスとヒト IPF 臨床検体の遺伝子発現解析は順調に進んでおり、解析結果の解釈には十分な注意が必要であるが、肺線維症の発症・進展のメカニズムを明らかにしつつあることは高く評価できる。</p>		